

令和2年度 狭山市立南小学校学校関係者評価表

- ※ 学校自己評価や保護者アンケート等を踏まえた今後の改善方策について評価する。
 ※ 学校自己評価（教職員評価：自）と保護者アンケート（保ア）からA+Bを評価の目安として示す。
 A：よくできている。（90%以上）
 B：概ねできている。（85%以上）
 C：あまりできていない。（70%以上）
 D：できていない。（70%未満）

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から
			評価	説明	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。(保ア1)	A	コロナ禍の中、状況に合わせた学校運営に努めることができた。	・学校が楽しいことが一番だと思う。児童だけでなく教職員も同様。先生方の協力体制が児童にも影響し、みんなが楽しい学校と感じるとよい教育活動ができるのだと思います。 ・町探検で来館した児童たちは元気に楽しく授業を受けていたように見えます。クラスによって礼儀、挨拶に多少の差を感じられました。 ・臨時休業中にも家庭学習の課題が出されていたことは良かった。 ・今年は今までにない事態の中様々な工夫や検討を下されたので子供たちが元気にすごせました。これも先生方のチームワークの良さだと思います。
	2	児童は、学校生活が楽しいと感じている。(保ア7)	A	・ほとんどの児童が、学校に楽しく登校している。(保ア7: A51.7%、B42.2%)	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。(自2)	A	・教職員は学年で共通理解を図り、連携協力体制が機能した。(自2: A+B100%)	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。(自46)	C	・トイレ・流しの清掃が課題である。(自46: A+B81%)教務部で分担し、清掃を見届けていく。 ・保護者アンケートで「全てのトイレのリフォーム」が4通希望されている。今後も粘り強く市に要望していく。	
	5	学校の施設・設備は安全に管理されている。(保ア5)	A		
学習	6	教師は、児童が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。(保ア3)	A	学力調査によると学力は例年を上回る結果を示した。まだ平均を下回るので今後も学力向上に努める。	・学力の個人差が大きいと思うが、目標に達していない児童への個別指導と、それだけの時間確保も願います。またICT活用は日々重要となってくる。その環境整備も市教委にお願いつつ先生方には活用の研修に励んでもらいたい。 ・児童たちの研究発表の掲示をみました。児童主体の教育は今後ますます重要になりと思います。これからも継続していただきたいと思っています。 ・家庭環境により家庭学習に差が出てしまうことへの配慮。 ・授業でできない事も多い中、出来ることをしっかり取り組んでいただけたと思います。子供たちもストレスがたまっていたと思いますがよくがんばりました。
	7	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。(自35)	B	・体験活動や児童の興味・関心を重視した学ぶ喜びを味わわせる授業を行っている。(保ア3: A+B92.7%)	
	8	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。(保ア8)	B	・学習の決まりは(自35: A+B89%)だった。引き続き学びの土台作りを行う。	
	9	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。(自16)	D	・市全体の課題でもある家庭学習は十分でない。(保ア11: A+B60.3%)。家庭と連携し、粘り強く取り組んでいく。	
	10	児童は、英語活動をととして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。(自14)	A	・英語活動に児童が楽しく取り組んでいる。(自14: A71%、B29%)。英語の評価は高い。	
規律ある態度	11	児童は、進んであいさつをしている。(保ア9)	C	怪我を伴う児童の重大な事故は2学期末の時点で0であった。	⑯がAという評価である。やはり大人が手本を示さなければいけない。今後とも範を示せる教師集団あってほしいと思います。 ・児童館に遊びに来る児童たちは、先に挨拶することが少ないようです。もっと積極的に挨拶することを期待します。 ・子供の元気な挨拶は地域にも活気を与えてくれる。校内だけでなく地域での挨拶もご指導いただきたい。 ・チャイムが鳴ると言われなくても一人一人が教室に戻り時間を守っているのは毎年立派だと思っています。あいさつも元気にしてくれそうです。
	12	児童は、場に応じた言葉遣いができている。(保ア9)	C	・あいさつや場に応じた言葉遣いは、概ね昨年同様(保ア9: A+B83.7%)である。今後も継続的に指導をしていく。	
	13	児童は、時間を守って生活している。(自3)	A	・日課を守って活動できた。(自3: A+B100%)	
	14	児童は、きまりを守って生活している。(自36)	B	・基本的な生活習慣の定着は(自36: A+B89%)であるが、静かな廊下歩行が(自32: A+B75%)課題である。繰り返し指導をしていく。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。(自1)	A	・教師は手本となる心豊かな教師を目指している。(自1: A+B100%)	
健康・体力	16	学校は、児童の体力を高めている。(自22)	B	コロナ禍の厳しい状況にあるが、学級閉鎖やコロナウイルス感染者は2学期末の時点で0であった。	・制限が多い中、屋外での活動に引き続き取り組まれることを期待する。 ・学校でのコロナ対策の様子が分かります。仕事が増えて大変ですが、引き続きよろしく願います。 ・手洗いうがいの習慣が身につく、コロナウイルスだけでなくインフルエンザ等の病気もほとんどなく良かったです。
	17	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。(保ア12)	A	・体力向上の手立てに制限があるが、児童は外遊びや朝マラソンに進んで取り組んでいる。朝マラソンは走った周数に応じ、校長が賞状を出し、認め励ましている。	
	18	児童は、健康を意識した生活をしている。(自20)	A		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。(保ア2)	B	コロナ対応を逐次提供した。保護者アンケートでは感染対策の感謝を3通頂いた。	・今年度に限っては地域との連携は難しい。できる範囲の中で実施できればよいのではないかと。 ・町探検で児童館と公民館と連携した。地域資源に目を向けた活動であった。 ・登校班の見守りは各地区で見られました。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。(自48)	D	・学校応援団の活用は厳しく、評価の中で最も低い。(自48: A+B38%)つながりが絶えない様努める。	